

**令和7年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業**

**中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）**

**活動テーマ**

**『森と海を繋ぐ関係人口の創出と  
持続的な環境保全活動の推進』**

活動団体の活動地域：宮城県石巻市牡鹿半島荻浜地区

活動団体名：合同会社もものわ

中間支援主体名：一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン

# 中間支援主体としての獲得目標と達成状況

## ■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

### ◎ 中間支援の機能強化

活動団体だけでなく、他のステークホルダーの業務やビジョンを深く理解することを心がける。

そして、各ステークホルダーにも相互理解の重要性を共有し、各々が連携しやすい体制が自然と構築されることを目指す。

### ◎ ローカルSDGs事業の推進

ローカルSDGs事業を推進し、持続的に地域が自走できる仕組みを作ることを目指す。例えば、スギハーブティーの売上が向上すると、製造に関わるあつぷるぶらす（多機能型事務所）との関わりが増えるほか、新規で人を雇用する可能性が生まれるなど、事業を軌道に乗せることで、ステークホルダーとの連携の幅や、新たな人を巻き込む余地が広がると学んだ。

そのため、事業家の視点を養い、事業に対する的確なアドバイスをできるようになるべきだと考えている。

### ◎ 柔軟なビジョンの構築

現状のステークホルダーだけでは解決が難しい課題に対しては、他地域の力を借りたり、新しい人材を迎え入れたりするなど、地域のプロデューサーのような視点で、柔軟なビジョンを描けるようになりたいと考えている。

その過程で、活動団体以外が主体となる事業を創出しながら、地域全体で課題解決に向かう仕組みを模索していく。

## ■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

### ◎ 中間支援の機能強化

協力隊の永井さんが加わったことで、地域の人とのコミュニケーションがより密になった。

また、1月に実施したステークホルダーMTGには、大学の研究者や行政、地域の漁業者など多様な所属の方が来られ、相互理解を深める機会になった。

### ◎ ローカルSDGs事業の推進

森林整備事業：講習や倒木処理でMORIUMIUSや名取トレイルセンターとの関わりができ、彼らの運営する事業との連携の可能性が見えてきた。

杉ハーブティー販売：販売は順調に展開しており、海外への展開も実現した。

企業研修の受け入れ：もものわやはまのねでの直接の受け入れや、FJから紹介して受け入れるケースもあり、研修受け入れの体制が構築できた。

### ◎ 柔軟なビジョンの構築

R7年度では、知床財団や複数大学など研究機関との連携や、地域おこし協力隊がチームに加わる一年になった。

ステークホルダーが増える中、交流を意識的に増やし、共有されたビジョンの構築を目指す。

# 中間支援機能ごとの振り返り

| チェンジエージェント機能 |           | R7獲得目標（R7年度当初設定）<br>高めたい機能（◎/○）とその理由 |   | 現状の自己評価（R7年度末時点）<br>自己評価（◎/○/▲）とその理由 |  |
|--------------|-----------|--------------------------------------|---|--------------------------------------|--|
| 変革促進         | 物事を整理する   |                                      |   |                                      |  |
|              | 意味づける     | ◎                                    | 連携体制を確立し、この地域ならではの体制を試行錯誤していく。                      | ◎                                    | 他地域の視察や意見交換を通じて、より石巻の個性・推しポイントの理解を促進できた。                       |
|              | 癒しとなる     |                                      |   |                                      |  |
|              | 見通しをつける   |                                      |   |                                      |  |
| プロセス支援       | 話を聞く      | ◎                                    | R6より実施してきた定期的な意見交換の機会を、開催頻度を決め、確実に実施していく。           | ◎                                    | 協力隊の永井さんが加わり、活動団体や各ステークホルダーとの意見交換が密になったことで、より迅速な支援につながるようになった。 |
|              | 場を開く      |                                      |   |                                      |  |
|              | 喝を入れる     |                                      |   |                                      |  |
|              | 現在地を確認する  |                                      |   |                                      |  |
| 資源連結         | 新しい人を入れる  | ◎                                    | 東京大学/知床財団の視察の受け入れを通じて、連携を具体的なものにする。                 | ◎                                    | 知床への視察を経て、石巻に専門家を紹介いただく機会が増え、北大など更なる研究者との連携関係を構築できた。           |
|              | 事例を紹介する   |                                      |   |                                      |  |
|              | 引き出す      |                                      |   |                                      |  |
|              | 拡散する      |                                      |   |                                      |  |
| 問題解決提示       | 文字や図に落とす  |                                      |   |                                      |  |
|              | 問いを立てる    | ◎                                    | R6より実施してきた「活動団体始め、関係者間で何を大切にしているのかの深掘り」を継続して実施していく。 | ◎                                    | 環境の変化や事業の進展に合わせ、「ものわ」や「はまのね」等の関係者間で、活動の方向性を再確認する対話を定期的実施した。    |
|              | 会議を進行する   |                                      |   |                                      |  |
|              | 落としどころを探る |                                      |   |                                      |  |
| その他          | ※必要に応じて追加 |                                      |   |                                      |  |

# 今後の中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

【R7年度当初目標】

石巻には継続的に関わりながら、中間支援のナレッジを整理し、地域のメンバーがアクセスできるように心がける。団体として目指す水産業の新3K（かっこよくて、稼げて、革新的）を実現するために、地域循環共生圏の概念を取り入れ、石巻以外の活動地域にも地域共生圏づくりの概念を広げていく。その上で地域間での連携を実現し、共通の課題解決、限られたリソースの最適化を地域を超えて支援していくことを目指す。

## ■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

| 目指す姿  | 目標達成に向けた、次年度の行動  | チェンジエージェント機能での分類  |
|---|--|---|
| 活動団体をはじめ、各ステークホルダーの活動を理解し、ステークホルダー全体の共通理解に繋げることができる。また、そこから全体での議論の活性化・事業の全体像やビジョンの共有を促す。そして、具体的な協働プロジェクトを推進するにあたり、必要なリソースへの橋渡し、伴走支援まで、一貫して実施できる団体であることを目指す。 | <b>議論・共有の強化:</b><br>定期的なミーティングと活動の言語化により、知見共有とビジョンの浸透を図る。<br><b>関係人口の拡大:</b><br>インターンや企業研修を通じて、若年層や外部人材が参画する機会を広げる。<br><b>事業展開と啓発:</b><br>杉ハーブティーの販路拡大と共に、ネイチャーポジティブを推す研修事業を構築する。<br><b>連携体制の構築:</b><br>地域おこし協力隊との連携やステークホルダーの拡充を通じ、自治体の施策との整合性を強める。 | <b>議論・共有の強化:</b><br>プロセス支援、問題解決提示<br><b>関係人口の拡大:</b><br>資源連結<br><b>事業展開と啓発:</b><br>変革促進<br><b>連携体制の構築:</b><br>プロセス支援、資源連結 |

## ■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

・科学的な知見の収集と、それを活かした地域資源の利活用を提案するため、官民学3者の連携体制の構築